

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等) 学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等) 学校種別	私立大学
	科目名	生命科学インターンシップ
	学部・研究科等名	生命科学部
	担当教職員名・役職	川上 雅弘 准教授(生命科学部)、西田 貴明 准教授(生命科学部)、若林 憲一 教授(生命科学部)
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	12
	受入企業等数	17
	受入企業等名	株式会社島津製作所、他16社
	産学協議会の整理上の類型	3.タイプ3(汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	5.他県をまたぐ広域でのキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動
	上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) 3.その他
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	各自の決められた受入れ先で5日間以上(1~2週間程度)の就業体験を行う。
	1-3.上記回答内容に関する詳細	各団体の業務補助や事業PRのための記事考案、分析および研修に従事した。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	事前授業(プレ・インターンシップ)と事後授業(アフター・インターンシップ)時に提出されたレポートの内容や、発表、メンバーに対する率直なコメント、授業への積極的な関わり、グループ・ディスカッションへの参画などの授業態度に加え、日報へのコメント等、実習先企業等からの評価を加味して総合評価する。

項目	確認事項	届出内容	
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している	
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容		
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている	
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前学習としてインターンシップの「目的(何のために参加するのか)」、「目標(どんな自分になりたいか)」、「実行計画(どのように実行するか)」について、個々の受講者自らが明らかにする。また、ビジネスマナー研修(外部講師による講義)、グループでのディスカッションと発表、人権研修、情報論理講義、レポート作成などを行う。	
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事後学習として「インターンシップフリートーク」、「活動報告(何を実行したか)」、「評価(何を得たか)」、「成長(どう変わったか)」、「今後に向けて(どう活かすか)」について、個々の受講者自ら明らかにする。また、グループで就業体験の報告とディスカッション、全体報告会での発表・共有などを行う。	
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	教職員が学生と面談を行い、学生がインターンシップ中に作成する日誌も用いながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。	
	要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
		4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み			
4-3.上記回答内容に関する詳細		事前授業と事後授業時に提出されたレポートの内容と準備、振り返りによる「気づき」の獲得や、「経験」の落とし込みにより、以降の学生生活や、社会人としての活躍に必要な基礎力を養成できるように指導を行っている。	

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	実施期間6か月間(うちインターンシップ実施期間5日～10日)
	5-3.上記回答内容に関する詳細	実習先企業等で夏期休業期間中に5～10日間(1～2週間)程度の就業体験を行う。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	事前にインターンシップの意義や目的を受入企業にご理解いただいた上でそのニーズにも応えられるよう、協働して実施している。
	6-3.上記回答内容に関する詳細	学生は、受入先企業・団体にて新入社員と同等レベルの業務に携わる。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2023/4466.html
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	生命科学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1466
	メールアドレス	seimei-jim@star.kyoto-su.ac.jp